

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072900416		
法人名	医療法人社団志恩会		
事業所名	グループホームトーホー (つつじユニット)		
所在地	群馬県みどり市笠懸町阿左美3279-3		
自己評価作成日	平成30年11月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成30年12月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

後方支援になっている東邦病院や、24時間対応の訪問看護が近くにあり、安心の得られる施設になっています。ご近所の方の協力で畑をお借りし、季節ごとの新鮮な野菜を提供しています。職員のケアの向上を目指し教育委員会を中心に勉強会を開催しています。、地域のお祭りに参加したり、ボランティアの方に来ていただいています。ユニットでの外出や外食、個別に外出も行っていきます。毎月イベントがあり楽しく生活しています。その人らしい生活ができるよう、地域の方、医療と連携をとりながらチークケアを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

年1回家族との面談の機会を作ることで、面会に来ない家族が来るチャンスとなっているとともに、今後どのようにしていきたい等の要望を聞いている。面談を通し家族の様々な思いを知る場となり、今後のケアに活かす一助としている。また、利用者に対し人生の先輩として、一人ひとりを大切と認めて関わることが尊厳を守り尊重に繋がると意識し、そのために毎月の勉強会では、管理者が毎回、「言葉づかひや表情・態度」などのテーマを決め、職員一人ひとりに文章化させ考えさせる研修を通し、人材育成に向けて積極的な取り組みを実施している。更に共用空間作りの工夫では、「カーテンでの光の調節、昔聞いていた歌を流し安心できる環境にする、ご飯や副食が認識できるよう食器を黒にする、毎日温度と湿度を4回測定し、快適に過ごせるように空調管理に努める」等、利用者にとって居心地のよい空間作りに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中に根ざした施設としての理念と、各ユニットの方針を作り、職員は共通の理解を持ち利用者様を寄り添ったケア行っている。	事業所の理念は、平成30年に管理者が作成し直し、理念の達成に向けての目標を各ユニットの職員全員でそれぞれ作成している。理念・目標内容は管理者が各ユニット会議でも意識づけており、職員の日々の業務に反映されている。	理念を基に各ユニットで独自の介護目標を立案しているが、理念内容の共有化を図りつつ、各ユニットの目標に対して、ユニットを超えた職員間の話し合いの機会作りをし、理念・目標への理解の強化を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの行事、地域の方の方も参加を呼びかけている、地域の祭りやイベントも参加している。	地域のお祭りに参加したり、各ユニットの便りを回覧板に載せ見てもらったりしている。反面、事業所の行事や「認知症窓口」での相談も回覧板で回しているが、参加や相談は少なく、地域とのふれあいは少ない。	事業所の行事参加を地域に呼びかけているが参加もないことから、どう地域と関われるかを職員全体で話し合う努力を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ユニット通信を毎月作成し、認知症豆知識を掲載して回覧板で回して頂いている。認知症窓口を設置し、いつでも相談して頂けるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回運営推進会議行って、民生委員、市の職員、地域の方、ご家族、管理者で運営の報告をし意見交換行い、協力をお願いしている。	2ヶ月に1回、民生委員・市の担当職員・管理者・地域の消防団員・ユニット毎に1~2名の家族参加で開催し、ヒヤリハット内容の確認や入居状況・行事連絡等を話し合っている。話し合いは活発に行われ、地域の高齢者の情報等も得られているが、直接サービスに結びつく内容は出ていない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当職員と連絡を取り相談したり、運営推進会議に参加して頂くことで日頃の状況を理解していただいている。	市には、生活保護の方の受け入れ相談や、届出書類・加算内容等の相談に出向いている。職員は運営推進会議にも出席しており、協力体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回身体拘束の勉強会行い、具体的な内容、不適切な介護、身体拘束がもたらす弊害などについて理解を深め、利用者様の行動を抑制しないよう取り組んでいる。	理念にある「自分の家族を入れたい施設にする」の具現化に向けて、命の大切さとともに、その人らしく生きてもらえるよう、尊厳を守るケアの実現に取り組んでいる。年2回の勉強会と共にユニット会議で、職員の個別ワークを実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い虐待防止に取り組んでいる。本部より虐待に関する新聞記事の情報が送られ虐待防止の周知徹底を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状は利用されている方が居て、スタッフは学んでる。今後も必要な方には支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項の説明を行い、理解していただいている。改正時には書面での説明をし、面会時などにも説明しご理解頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回面談を行い、日頃の様子をお伝えするとともに、ホームへのご要望を聞き運営に活かすようにしている。月に1度介護相談員が来所し、利用者、ご家族の要望を聞いている。ご意見箱を設置し、どんなご意見も伺えるようにしている。	家族とは年1回、その家族の来所できる日程を聞いて、管理者とケアマネジャーで面談の機会を設けて種々話し合うことで、今後の要望や家族が抱える悩み等を知る機会となっている。また、面会に来られない家族には、これが、来所するチャンスとなり、信頼関係の構築に繋がっている。	意見の聴取を図っているが、とくに、事業所の運営に関する意見が聴取できる場づくりを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会で、職員の意見や要望を聞き、管理者会議でを上層部に伝え、改善に努めている。	職員が誰でも参加できる毎月のユニット会議で、管理者と職員が話し合える場を作っている。そうしたなか、事業所内の故障箇所について、掃除分担について等、業務の改善について意見が出され、管理者は法人上司と話し合いながら、意見の反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年職員の自己管理シートを作り、目標、ステップアップに取り組んでいる。年に3回面談を行い、目標達成状況に応じアドバイス・要望を聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所の勉強会に参加したり、施設外の研修の情報を提供し、参加できるよう勤務調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ全体での研修に参加している。介護部での勉強会を2ヶ月1回行い意見交換の場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人に会いに行き、生活や要望について聞き、安心して入所できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にホームの見学していただき、ご家族の要望や困っていることについてなどを聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族がどのようなことで困っているのかお聞きし、他のサービスにも対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の出来ることを把握し、したい事、出来ることを一緒にして頂き、感謝の言葉を伝えお互いを認め合う関係を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にご本人の様子を伝え話しやすい関係を作り、ホームの行事に参加して頂き、関わりを多く持つようになっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までのかかりつけの美容室にご家族様連れていただいている。馴染みの所へドライブに出かけたりしている。	馴染みの人や家族・場所に触れることで、喜びの表情を見せ、心の安らぎに繋がると捉え、外出や面会の場を大事に関わっている。利用者は昔の事や、その時代の自分は覚えているが、今を忘れがちなので、昔の自分を思い出してくれれば良いとの思いでケアに当たっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お手伝いや、お菓子作り、レクリエーションを通して利用者同士が関わり合えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退所した方でも退院後再び入所希望があれば相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴から確認しながらご本人やご家族様の話を聴いて、カンファレンス行い、ご本人様らしく生活出来るように努めている。	特に、高齢の利用者は家族に気遣いをし、本音を話すことも少ないが、日々のケアのなかで職員は表情を観察したり、本人に選択してもらうような声かけや、物を見せて選んでもらうなど、「本人らしく」を意識した関わりに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前から情報提供書を頂き、ご本人の把握に努め、また、ご家族から情報を伺い、その人らしい生活ができるようスタッフ間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人ケア記録に日頃の様子を記入、行動だけでなく表情にも気を付け観察している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月ごとにモニタリングを行い、カンファレンスにてケアマネジャーやスタッフの意見出し合い、状態変化に伴ったケアプランを作成している。	入居後ケアマネジャーと家族で面談し、2週間位利用者を観察後、介護計画を立案している。月1回各ユニットから2~3人の職員が参加して、ケースカンファレンスを実施している。結果を担当者会議に提出し、担当者とケアマネジャーが検討・修正を加えて、介護計画の変更に繋げている。	介護計画に基づいたケアの実施を主軸に、計画が見える各種の記録内容の統一や、記録方法・書式の検討を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の様子をケア記録に残し、申し送りや記録の確認することで共通の理解ができるようにしケアプランの見直し活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様と通院に付き添ったり急な受診や困難なケースに柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防士の協力で避難訓練行っている。コンビニエンスストアで買い物を楽しんでいる。地域のボランティア来ていただき、祭り等に参加をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診の医師の見て頂きながら、専門的な通院はご家族様が行っている方もいる。	利用者のかかりつけ医受診については、家族が職員が同行し、口頭で受診内容を医師に伝えている。また、3ユニットの利用者は、協力指定医により月1回の定期受診がある。訪問看護師は週1回来所し24時間契約もしているため、医師との連携もとれる体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一度に訪問看護の健康チェックを行い、その週の変化等を伝え相談しアドバイスを頂いている。24時間対応や医者との連携も取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後も連携をとり、状態確認伺い状態の把握に努めソーシャルワーカーとの退院に向けての相談も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の時に重度化対応、終末期対応指針の説明をし同意書を頂いている。、状態の変化に伴いご家族様の意向を確認し、看取りの同意書を頂き、主治医、訪問看護の協力でご家族様と一緒に看取りさせていただいている。	管理者は、看取りについての職員の考えや不安等についての職員アンケートをもとに、重度化や終末期・看取り等の研修や指導を実施している。看取りについては職員・家族・訪問看護師・協力医でチームを作り、介護でもできる看取り体制を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会に参加をして、年に一度は消防士による救急救命の研修を受けて、対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を行っている。昼夜の設定で消防士に来て頂きアドバイスを頂いている。地域の方にも参加して頂き災害時の協力を依頼している。近くにある法人の施設の協力体制も整っている。	民生委員・消防団員の運営推進委員が参加し、年2回火災避難訓練を実施している。近隣の法人施設からの支援があり、利用者避難の見守り体制が出来ている。また年1回、法人の5つのグループホーム全体で炊き出し、地震避難の防災訓練を行っている。備蓄は、各ユニット1日分の食料がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を尊重しお一人おひとりにあった言葉かけや対応をしている。	日々の業務において、利用者は人生の先輩として一人ひとりを大切に、「声かけをしてからの介護や幼児言葉を使わない」等、その人の尊厳を認めたいケアに取り組んでいる。更に毎月の勉強会では、管理者がテーマを決め話し合う機会を作っており、尊厳やプライバシーへの気づきを指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が選択できるような声かけ対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	傾聴を心掛け常にご本人様の希望に添った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容師に来て頂き、好きな髪形にしている。ご本人に好む洋服が選べるようにクローゼットの整理している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自立されている利用者様は、配膳、下膳行っている、その後の片付けも一緒に行い、手作りおやつも一緒に楽しんで頂いている。	朝食は職員が作り、昼と夕食の食材は外部委託している。利用者が食べやすいよう味付けや調理方法をアレンジし、食器に盛り付けている。利用者の好みをおやつや行事食で提供し、食事の楽しみに繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食、夕食は業者に頼んでいる為栄養バランスは取れている。その人に合った形状で提供し、好きな飲み物を飲んでいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア行い、磨き残しが無いか職員が確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用、排泄パターンを把握、トイレでの排泄に向け声掛け案内を行っている。	介助での排泄、他はベット上排泄で、排泄チェック表を基に、トイレ誘導している。おむつからリハビリパンツへ変更できたり、終末期においても2人介助でトイレ排泄介助し、気持ちのよい排泄行動ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため水分は一日5回以上摂って頂くようにしている。ヨーグルトは毎日食事の献立に入れ、乳製品を多く摂って頂いている。便秘症状の利用者様にマッサージやホットタオルで温めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2～3回楽しく入れるように声掛けを行い、浴槽に入りゆっくり体を温めていただいている。	職員2人で入浴と着替えのケアを行い、利用者が安心して楽しく入浴できる支援を行っている。毎日入浴したい方には他のユニットの入浴日も利用し、入浴を拒む方には、無理強いをせず清拭介助等で清潔保持に努めている。時に、入浴剤や菖蒲湯等で変化をもたせるなどの工夫がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前にご本人の声掛けをし確認を行い、眠れない時にはホールにてスタッフと過ごし、安心をして気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬表はバイタル表に添付しいつも確認できるようにしている。状態が変化した時は、訪問看護、主治医に報告し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者のできることはして頂き職員は感謝の言葉を伝え張り合いに繋げている。また、レクリエーション、カラオケ、塗り絵、将棋等取り入れている楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くのコンビニエンスストアに買い物に出かける方もいる。年に一回、家族も参加できるバス旅行に行っている。	日常的には、週2回近所へパンを買いに行ったり、車椅子で近くに散歩へ行く機会がある。また、家族が外食に連れだしたり、法人主催の日帰りバス旅行に行く等、外に出る楽しみを提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と買い物に行き好きなものを買われている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度を測定し過ごしやすいよう調整を行っている。玄関には季節の花をかざり、壁には行事の写真や季節の装飾をしている。	1日4回湿度と温度を測定し、快適に過ごせるよう調整を図っている。また、カーテンによる光調整、食器を黒色にし白いご飯がわかるようにする、昔聞いていた歌をながし音の刺激とする等、居心地よく過ごせるような空間作りに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにテーブルと椅子、テレビの前にはソファを置いてくつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時ご自宅で使用していたタンスや引き出しなど持ち込んで頂く、ご家族様と写真を飾ったり家に居た時と同じ生活出来るように心かけている。	全室日当たりがよく、明るい間取りになっている。ペットが設備され、家からはタンスや衣装箱、家族の写真やテレビ、犬を飼っていた方は縫いぐるみ等の持ち込みがある。縫いぐるみに声かけしたり、テレビを見ての笑顔が見られたり、家庭的な雰囲気ですぐ日常を過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所、浴室等わかりやすく表示している。捕まりやすい位置に手すりを設置している。		